



2008ASTCTトライアスロンアジア選手権広州大会レース速報2 上田藍が優勝。北京へ代表権を手にする

U-23では平出美雨が2位、ジュニアでは佐藤優香が2位

5月3日(土)、中国・広州市で、昨日に引き続き、2008ASTCTトライアスロンアジア選手権2日目、女子のレースが行われた。

男子と同様、このレースの優勝者は、本年8月に行われる北京オリンピックへの出場権を獲得できる。

午前9時30分にスタートした女子エリートは、レースナンバー1の井出樹里(トーションパートナーズTeam Ken's)が積極的に飛ばしてスイム1位。中国勢のシン・リン、ザン・イ、テン・チャンチャン、リュ・ユンを従えてバイクへ。

バイクの第1集団には、上記5名に、庭田清美(アシックス・ザバス)、古谷あかね(トヨタ車体)、田中敬子(NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58)に加え、リー・ヒュンジュ(韓国)とキンバリー・ヤップ(マレーシア)の5名が加わった。

上り坂にかかると、中国勢は一人逃げの体制をつくらうとするが、下りで日本勢が追いつく。その駆け引きを繰り返しながら、ヤップをのぞく9名がトランジションへと駆け込んだ。

第2集団は、上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)と関根明子(NTT東日本・NTT西日本)にジャオ・カイピンとズ・インの中国勢、下がってきたヤップを加えた5名。ランが始まったときは、トップとの差は1分15秒となっていた。

ランに飛び出したのは井出。中国勢を置き去りにひた走るが、2周目の終わりに庭田がトップを奪った。しかし4周目、バイクまでの遅れをランラップ1位のスピードで追いつけた上田があっさり庭田をかわし優勝。北京への日本代表権を得た。

2位は庭田、3位は井出の順となった。



スイムの2周回目に出る上田。この前には関根がいた



中国選手を囲む井出(左から)、庭田、古谷

JTU Official Sponsors & Official Partners



P.1/P.2

そのほかの日本選手の結果は、古谷5位、関根6位、田中14位だった。

なお、同日に行われたU-23(23歳以下)女子は、ランでよく前を追った平出美雨(沖縄県連合/チームゴーヤー)が2位、またジュニア(20歳以下)では、昨年惜しくも年齢の関係で出場できなかった佐藤優香(日本橋女学館高等学校/チームケンズジュニア)も2位に入った。

すでに北京オリンピックランキングで3枠の出場権を獲得している日本女子は、上田が優勝したことにより、あと2枠を残すのみとなった。

この後、6月8日(日)のITU世界選手権バンクーバー大会(カナダ)で3位以内に入れば北京オリンピック出場決定となる。最終出場選手は、北京オリンピック出場ポイントの順、その他の選考を経て、6月半ばに出場が決定する。各国の最大出場選手枠は3名まで。

なお、今回のレースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



トランジションからランに飛び出す井出。万全の走りに思えたが

上田 藍

シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター



スイムはやはり遅れてしまい、タイムでは1分15秒遅れた。バイクに出るときに50秒まで縮めたが、バイク中盤では1分26秒まで開いてしまった。ランは1分15秒差でスタートしたが、井出選手と庭田選手が速いのは分かっていた。しかし、トレーニングしてきたことを信じて、最後まであきらめないで走ろうと思っていた。優勝できてとてもうれしい。このレースでスイムなどに課題がまだできたので、それを修正しながら北京オリンピックまで調整していきたい。出場権を得られたことで、落ち着いて練習できる。

平出 美雨

沖縄県連合/チームゴーヤー



今年からU-23に上がって、はじめての大きなレースだった。スイムは思ったよりもいい位置で上がったし、バイクも走れた。ランに入ってから、先行する中国の選手を追い詰めるながら抜けなかった。悔しい思いがある。しかし、レース全体の出来として満足している。

佐藤 優香

日本橋女学館高等学校/チームケンズジュニア



昨年は、年齢の関係でアジア選手権には出られなくて悔しい思いをしたので、優勝したかった。ランは苦しい戦いになってきつかったが、自分の実力のなさを感じた。スイムではトップだったが、バイクはだめだった。このレースであらためて自分の弱さを感じた。

JTU Official Sponsors & Official Partners

